



師走の訪問者

私ごとで恐縮ですが、師走に入った途端に体調を崩す中、押し寄せる年末のスケジュールを何とかこなし、ヨレヨレになつて、ようやく辿り着いた年末。

「食う、寝る、遊ぶ」…こんなシンプルな毎日を、ただただ送りたいだけに、その裏側で、小難しい顔をした大人たちが顔を付き合わせ、なんと複雑な手続きを動かしていくのだろう…世の中って本当に不思議でなりません。

そうした中、先日の餅つきは、餅米を蒸すカマドの火を炊きながら、やつと我に返れたような…入れ替わり立ち替わり、そこを訪れる子どもたちの問いかけに応じるうちに、少しずつ元気を取り戻していくことを感じた時間でした。

何をやっているのか、どうして火を燃やすのか、銀色に光る入れ物は何なのか、釜やセイロには何が入っているのか、訪れる子どもたちそれぞれの興味は、驚くほど尽きません。餅つきとの繋がりに、少しでも気づいてもらおうと、もち米と

普通のお米(うるち米)を手に取りれるよう並べて置いてみたり、蓋をとって中身を見せたり。そうしていると、何歳であっても必ず、見事なまでに、その子なりの関心に応じて、五感を使い何かを確かめようと真剣に迫ってきます。この湧き上がるような好奇心。教えられる以上に、自ら知るう、学ぼうとする存在…それがそがやはり、子どもなのだと思つたのです。(それを引き出すには、物や人といった周囲の環境に仕掛けが大事なのですが)さて、この一年、利用者の方々には気づきにくい部分で、実は様々な動きがあった年でした。

春には、社会福祉法や保育制度に大きな改正があり、vw弱小法人としては、その激変の波を乗り越えるための体制作りが追われました。

また、来年度に実施される10年に一度の大きな教育関連の法改正を見据えながら、今後の保育内容をもう一度自らに問い直してみる一年でもあったように思います。これは、これからの園生活や活動の様子を見守っていただく中で、実感してもらえるように、私たちが頑張つて

いかねばなりません。

そして、園長として、保育者の研修会や保育者養成校で話をさせられていたり、専門誌の原稿を書かまわらせていただいたり、園内の実践やその考え方を、対外的に発信する機会が、なぜか多い年でした。少し億劫な仕事でもあるのですが、そのおかげで、考えを整理できたり、新たな気づきがあったり、脳内の老化防止になったり…人に伝えようとすることは、自分自身が学ぶことになることを改めて実感しました。

その中で、とある大学からは、「20年後の社会モデル」というお題で何かを話せと…ニュータウン片隅、子どもの居場所に身を寄せる私になんと無茶な。それはちょうど目の前の子どもたちが、成人式を越えた頃だなど、その大きくなった姿を想像した時、ある思いを抱きました。「コドモとオトナの境目は、一体どこにあるのだろう…」かと。

その頃の彼らを、私はオトナと感じるのだろうか、そもそも、私、そしてこれをお読みになつているみなさんは、いつ頃からオトナになつたと感じたのかと。



もし何か一つ、コドモとオトナの違いをあげるとするならば、「育てる」という役割を少しずつ背負っていくのが、オトナと呼ばれる者の宿命でしょうか。それは、コドモと呼ばれる人に対してだけでなく、後輩や同僚、友人…そして周囲のみんなに…何らかの気づきや刺激を与え、憧れを抱かれる存在…それがオトナ。

同時にそうしたオトナも、何かから学びを得ながら、育てられている存在でもあるはずだ。

「育つ」というのは別の自分が変わっていくことです。何かから学びながら変容し続けるといふ点において、実はコドモとオトナの境目はないのかもしれない。育てる者が育つた分だけ、育てられる者は育つ…とも言えますよね。

カマドの前を行き来しながら、食欲に何かを知ろうとする姿は、本当に眩しい。でも、私たち大人だって、明日はまた、一味違った自分になるうとする姿は、やはりきつと、子どもに負けないくらい輝いている…それがもう、髪が白くなり始めた人であつたとしても。

まもなく、年も変わっていきます。

園長 折井誠司

- 編集 誠美保育園
- 発行人 折井誠司
- 印刷所 誠美保育園
- 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2
 電話 042-675-1155
 ファックス 042-677-5643
 E-mail sebi@nokken.jp
 http://nokken.jp/